

建設のプロ、再エネ事業へ参入 小水力発電を軸に

(株)新日本コンサルタント

建設プロジェクトの企画から調査、設計、施工管理などを行う(株)新日本コンサルタントは、建設コンサルタント業で培ったノウハウを活かし、再生可能エネルギーの発電事業を強化する。とりわけ、設備設計や工事などでの受託実績が豊富な小水力発電事業を柱に、国内外での展開をめざす。

同社では、2012年のFIT制度制定を機に、エネルギーマネジメント事業を分社化。ニックスニューエネルギー(株)を立ち上げている。富山市八尾町でのメガソーラー（出力1.2MW）に続き、すでに石川県金沢市を流れる犀川水系平沢川ひらさがわの砂防堰堤を利用した



平沢川小水力発電所

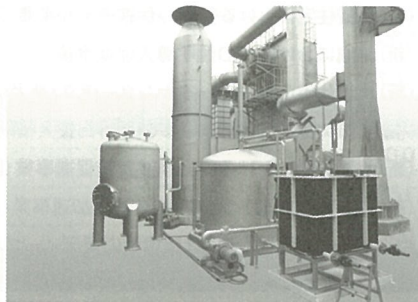
平沢川小水力発電事業（(株)柿本商会との共同事業体）を手がける。富山県内の機械メーカーと共同で、50kW以下でも収益が見込める安価な水車開発なども視野に、小水力発電の低コスト開発を進める考え。発電事業者の要望に応じてきた中から生まれたサービスを実装していく。🔌

CO₂回収70%を実現 エタンなどの有用ガスと燃料助剤を生成

(株)Eプラス

(株)Eプラスは製造工場などで排気ガスから排出される二酸化炭素を回収し、メタンやエタン、エチレンなどのガスと、石油や天然ガスの主成分と同じ炭化水素の重合反応物を生成する技術「CCFR」(CARBON DIOXIDE CAPTURE FUEL RECYCLE)を確立し、静岡県のパルプ工場で実証を始めた。9月まで実証を続け、安定したガスの生成やCO₂の削減状況などを確認。自動運転をめざす。

工程は①アミン化合物を用いてCO₂を吸収・液化、②①でできた溶液を無機状態のまま独自開発の金属触媒を用いて熱交換する。水素を注入して爆気を促進、③別の反



二酸化炭素回収・燃料化リサイクル「CCER」システム

応槽に移して電気分解する。添加剤の投入で反応を加速させ、燃料助剤に利用できる重合化合物を生成——となっている。およそ7割のCO₂を回収できるという。

廣田武次社長は「既設ボイラーなどへの設置が可能なオンサイト型をめざす」と話す。🔌